

名古屋大須ロータリークラブ

<本年度会長方針>

リノベーション

renovation

WEEKLY REPORT No.1217

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 木村 光徳 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 渡辺 観永 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL <http://www.nagoya-osu.org> E-mail office@nagoya-osu.org

第1428回例会

会員増強及び拡大月間

平成25年8月8日(木)

於 名古屋東急ホテル

会員 62名

出席計算数

56名中44名出席

出席率 78・57%

前及回出席率 89・29%

例会プログラム

★丹下社会奉仕委員長

・交通安全教室及び

老人介護施設訪問案内

★堀江30周年実行委員長

・ネパール奉仕事業

★林順治新世代奉仕委員長

・受入交換学生来日お迎え

・派遣交換学生出国お見送り

★小澤広報委員長

・ロータリーの友配布案内

★横井会員

・若協りくこ・大須寄席案内

★卓話

★ロータリーソング

「君が代」「四つのテスト」

指揮者 松本 哲朗

ピアノ伴奏 富根 玲子

★ゲスト

岐阜ネパール会

会長 筋田 雅則さん

★ニコソックス

筋田さんの卓話楽しみにしております。木村 光徳・堀江 英弥 8月4日に息子がフィンランドに

行きました。たくさんのお饗別
お見送り有り難ございました。

林 順治

長男と長女の家庭に孫が生まれ
忙しいけど嬉しい事です。

佐藤 彰

お盆です。棚経のお申し込みは
お早め！

暑い日が続きます。皆さんお体に
気をつけてください。

7月30日誕生日です。71才にな
りました。

小笠原和俊

歯牙検査無事終了しました。8
月24日誕生日です。

岡部 快圓

誕生日です。

丹下 富博・杉本 忠夫

妻の誕生日です。柴岡 正将

小笠原さん元気で何よりーワイフ
の誕生日です。

吉田 隆彦

8月23日15年目の結婚記念日
です。嫁に感謝しています。

白戸 泉

会長挨拶

会長 木村 光徳



今日は我々団塊の世代にとって、
若い頃のあこがれの地、アメリカ



合衆国について
お話しをさせて
頂きます。

小学生の頃から
高校生の頃まで、
テレビの
人気ドラマはそ
の殆どがアメリ
カの番組だと言
っても過言では
ない程放映され
ていました。そ
の中でアメリカ
の豊かさや出演
俳優、テーマ音楽の「カッツ」

に魅了され、又高校生の頃にはア
メリカンポップスやフォークソ
ングが日本中に溢れ、圧倒的に存在
感の有る国でした。

初めて私がアメリカに行ったの
が40数年前、20代の中頃です。

本当にワクワクしながら準備した
事を今でも記憶しています。当時
はまだドルの持ち出し制限が有り
銀行へパスポートを持って両替に
行き、金額を書き込んだスタンプ
を押しもらうという手続きが必
要で、1ドルが300円程度だっ
たと思います。飛行機もファース
トクラスとエコノミークラスだけ
で、ビジネスクラスは無い時代で
した。

アメリカに着いて初めてア
レキソンとアラスカ、ホテルでア
レキソンを見た時でした。物珍しか

ったので色々な番組を見てい
た時に、日本のクイズ番組やニ
ュースショーに全く似通った番組が
放映されていた事でした。又街の
中にも日本にはないお店、例えば
ピザオレタルシヨップ等が有り、
アメリカにはこんな店があるんだ
と思っていると数年後には、日本
でも同じ様な店が出来始めるとい
う経験も何度かしました。

当時はやはり世界のトップブ
ランデーであったアメリカを真似て、
日本は徐々に発展して来たとい
う事を肌で感じる事が数多く有り
ました。

★卓話

「奉仕事業のポリシー」

岐阜ネパール会
会長 筋田 雅則さん



ただご紹介いただきました「す
じた」でございます。約10ヶ月
の日本です。

本日は、「岐阜ネパール会」の活
動報告をさせていただく場を設け
てくださりまして、本当にありが

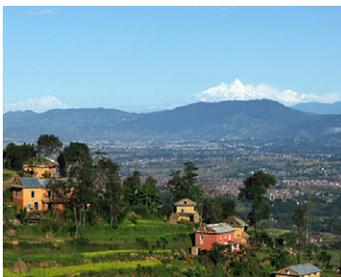
とじていきます。

今年度は合計5回のスクテ村訪問となり、毎回学用品・子供の衣類・学校の備品(中には医薬品を)持った訪問でした。

特に最後の訪問となった5月6日には「歯ブラシ&ペースト」を持っての訪問でした。と言うのも前回の訪問時に健康チェックを行い「虫歯」の子供が多い事が判明、何時もお土産にキャンデーを持って行ったのが「仇」となりました。

ただ今から、昨年の月からの活動内容を報告させていただきますが、活動だけではなくネパールでの生活の様子・ネパールの現状もご紹介しながら、進めていきたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

話を終えてから189枚の写真を、40分ほどの時間で、美しいヒマラヤから「銀杏旅館」での暮らしの、さらには支援先での様子や世界の最高峰からジャングルに至るネパールの大自然を紹介し、



最後に皆さんからの質問を受けたとき、さういいますので、よろしくお願ひいたします。

【支援期間】

私たちの支援活動は一つの村を1年や2年で終わる事はありません。なぜなら、「子供たち」に最低限の勉強をしてもらう事を目的としていますので、少なくとも3年間は支援し同時に村での親御さんの仕事を作り出す事も合わせて行っていくことで、「子供の勉強」が定着すると考えています。

そのために必要な、現金収入の手段としての仕事は、その村の地理的環境や村人のスキル、さらには「コミュニケーションの「和」が重要なポイントとなり、何が彼らにとって「良いのか?」を決めるまでには時間が必要です。

過去には「編み物」や「チキンプロジェクト」などを試みてきましたが、どれも決め手にはなっていません。

現在、日本人の「手芸家?」でありアジア雑貨店のオーナーでもある女性から、「村人に技術を教える」作ってもらい日本へ送りたい、との要請からトゥロパカル村へ一緒に行ってもらい、練習してもらっています。彼女の話では、街で仕事を依頼すると「技術やデザイン」が直ぐに流出してしまい、オリジナル製品にならないのだそうです。

これが、今年になって「やっと発注」出来る状態になりました。

これで幾らかの現金収入になってくれます。こうして少しずつではありますがありますが、心が変化しつつある事は事実です。

【支援内容】

また、村の子供たちの中にはお金がないために「病院」に行けない子供も多く居ます。私たちはそれを「見て見ぬふり」は出来ません。不足している医薬品や包帯・ガーゼといったものも必要です。そうした子供たちの治療費用もきめ、支援活動をやっている訳です。

もちろんそれには金額的に限度はあります。現在17名の子供たちに「学校へ通ってもらって」います。さらに、今年の暮れには10名を加えます。今までの累計



今までの累計

では180人ほどになります。この子供たちの制服・学用品・スリッパ・かばんといったものを年間通して支援し、勉強をしてもらうています。

勉強が全く嫌いであった私が、ネパールの子供たちに「勉強せよ、勉強せよ」と言うのは、いささか心苦しいのですが、せめて、「あいさつお」や「加減乗除」と言った事は分かってもらわねば、騙されて「家や土地さらには、お金を持っていかれる事」にもなりかねません。

現にミナのお母さんやお父さんは読み書きができません。お母さんは一番下の息子に「読み書き」を教えるもっています。ミナと家族の話は後ほど質問の時間させていただきます。

家庭環境の変化によっては、3年の支援が4年、5年の支援となる場合もあります。

今回の場合もそうです。現在スクテ村の小学校を支援しています。「母親が重い病気に」なったり、父親が行方不明(家出)に、はたまたお姉さんが家を出したりで、3年を経過しても家庭環境が改善せず「子供を学校へ通わず」事の出来ない状態にある家があり、そうした子供の居る間は手放せないことを理解していただきたいと思っています。



【村への交通手段】

村への道のりも、何度か通つ内に十分分かってきて「このあたりには木苺」が、ここには「シヤクナゲ」といったように歩く道筋が頭に浮かんできます。

何時も事前に連絡してあるため子供たちが学校で「花の首飾り」を作って待っていてくれます。

今年から支援活動をスタートした「スクテ村」へは途中「スコン





やっと部落に到着。
雨の日は道が川状態になり、寸断されるため連休です。膝まで水につかると、急に出来た川を超えなければなりません。昨年、日本の女性教師をトゥロパカル村へ案内した時にも「豪雨」でした。時には全身「べしよべしよ」になって村へ辿りついた事もあります。
「この「雨」は突然「じつぱー」と降ってくるので、手元に「傘」を持っていないと「ずぶぬれ」になります。

【支援する地域】

ただ、私たちの支援している村はシンドバルチヨークと言うネパールの北東に位置する地域の「とても広範囲」な所です。カトマンドゥから北東に80kmほど行った所です。その先は「タリ」と言う国境で、山また山の中にある村です。バスを降りてからでも最低1時間は徒歩で行かねばなりません。
現在支援している「スクテ」の学校はどうして「知った」のかをお話しますと、学校の校長先生が銀杏旅館に連れて、「私の村の子供たちも支援してもらえないか?」と云って来ました。

以前ローカルバスの中でお会いした校長先生だったのです。
この学校は、カリチョールと言う小さな町の手前5kmから南へ15kmほど行った場所にあり、「スクテ



朝7時30分にサンガを出発して途中ドラルガルで下車し昼食、さらに乗り継いでスクテのバス停で下車。ここまで約3時間半の道のりです。荷物を持って「吊り橋」を渡り、予約してあるトラック(牛乳を運ぶ車)に荷物と一緒に乗り込み1時間半、

のバス停)スソコシ川を左岸に渡って南に行ったところにある、ダマイ・マージ・パハリ・カミと言った極めてローカーストの村の学校で家々も粗末な状況であり、子供たちも制服や文房具、医薬品も買えない状態にあると訴えてこられました。
また他の地域、すくく西のタライ地方やルン「ー」なところでも「支援要請」の話があります。
がしかし、広範囲の支援は移動するのに時間も費用も掛かり過ぎることから、私たちはネパールの東側、その中でも「シンドバルチヨーク」地区を、と考えた訳です。
西側は平野が多く東側は山ばかりです。

【今のネパールの状況は】

停電は例外無く何時もの通り実施されています。日本とは異なり、政治の混乱による「ストライキ」は何時も発生します。
或る時は学生たちによる「諸物価値上がり」に対するストであったり、政府の役人による「総理大臣」の決定に対するストであったり、さまざまなる形で実施されます。

中でも「交通事故」による「幹線道路封鎖」などは他の国では無いものです。バスやトラックが歩行者を「跳ねた」時などは「示談」が済むまで「道路封鎖」です。



「いつか時の警察はただただ話し合い」で「話し合いで」と言うだけで何の力もありません。
政府の役人はバウン民族とチエトリ民族だけで占められていて、「世襲制度」の最たるものです。従って他の職業もこれと同様「世襲制度」をなかなか変えられないのが現実です。個人商店などは誰

でも出来ませんが、ローカーストの民族は出来ません。彼らは、鍛冶屋か道路の清掃の仕事とされているからです。

このカースト制度は10年以上も前に法律上廃止になっています。しかし、考えてみてください。「今日からカーストを無くしましょう!」と云ったところで、何千年と続いてきたカーストが直ぐに無くなるはずがありません。

日本でも「人の心」からは長い間無くなりませんでした。今現在も残る「差別」もあります。まだまだ100年以上はかかります。日本でもネパールでも「利権」の絡んだ仕事はなかなか手放さないのでが現実です。

一方都市改革は、政府の方針で現在カトマンドゥの「車」の通る道は最低のMにしなければならぬ事から、今年のはじめに条例を出し布告したのですが、市民が「猛反対」し、これもストライキの対象になっています。

道の両側で平等に振り分け「家を後ろに下げる」作業が各自で行われています。期日までに完了しないと1日あたり3,000ネパール・ルピーの罰金が科せられるため、必死で作業を進めているお陰で「街は埃だらけ」です。ただでさえ「埃っぽい」街が「もっともうと埃を」出しています。

外国人の多いタメル地区は別の

よんで、工事は行われていません。

私の友人で「風田屋」をやっている方は、この工事を通告されたのと地主から「息子が家を使つたら3ヶ月以内に出て行つてくれ」と言われたのが一緒だったため、急いで引越しをさせられたようです。私も年に2、3回は行っている「風田屋さん」なので何とか続けて欲しいと願っていました。彼は「もつネパールから引き上げたい」とも言っていました。新たな場所を探し出し「旧王宮」の裏手に引越して「営業」をはじめました。でも、彼は今年1月には日本に引き揚げられました。

さらに、ここネパールの新聞は「お金で」ところでもなる新聞社ばかりで、事件やニュースは全て「お金で」作られていると言つても過言ではありません。特に事件は警察と犯人が「ぐる」になってストーリーを作り「活字」にしてバックマージンを得るのが目的です。

昨今の日本ではあまり「新聞」を信用しない傾向がありますが、ここではやはり影響力は大きいものがあります。なぜなら、テレビの普及が追いつかないネパールでは「新聞」や「ラジオ」は最大のマスメディアです。特に新聞は村の奥地まで持つだけ、長い間保存できる利点があります。

一方、ネパールへ来られる観光

客ほど言つと、このころは韓国の方々の観光客が激減しています。

今多いのは中国のみならず「お金」いっぱい使つて行くかと言つて、そうではなく「値切れるだけ値切るためネパール人には敬遠」されているのも事実です。中国からはマフィアも入つていて、ネパールで資金を稼いでいるといわれています。日本の方は極わずかです。

長い間お聞きいただき本当にありがとうございます。少し時間が心配になってきましたので、ここでみなさんにはスライドをご覧いただきその後で「質問時間」とさせていただきます。

～質疑応答～

・ミナの家族の話

私がミナと最初に合ったのはラムチエ村へ実態調査に行った折村を案内してくれた女の子でした。それまでは、いろんな村を一人で回つて村人の様子を調査していましたが、なにせ言葉が分かりません。ただ見るだけでは実態は分かりません。

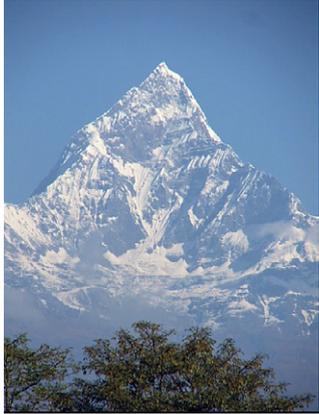
そうした時に現れて案内してくれました。(もちろん英語)彼女は役所のアルバイトもやつていて、回処の家にはどんな人が住んでいるのか仕事はどうか?などを調べるアルバイトです。日本で言えば

「国勢調査員」のような仕事です。彼女の兄弟は5人でミナ・パトネ(弟)・サロジ(弟)・ラスミン・アシス(弟)の学費や生活支援を私がする代わりに、彼らが「銀杏旅館」の営業に必要な書類やビジネスビザの取得をしてくれています。



ミナには私が「日本語」を教えました。だから男言葉がちよいちよい出てきます。例えば「金がない」↓「お金がありません」と言つたような感じですが、「お忙しい中、誠に恐縮ですが・・・」と言つたような「へりくだった」もの言い方は「日本人特有」の表現です。それほど日本は「感情豊かな素晴らしい国」なのです。

本日は「ネパール」での活動内



容をお聞きいただき、ありがとうございます。これからも、みなさんのご支援をよろしくお願いいたします。本日の報告会を終わらせていただきます。

みなさん、本当にありがとうございました。

ネパール奉仕活動

☆みんなでネパールへ行こう

すでに案内済みの「ネパール」での太陽光発電装置や文房具および図書寄贈奉仕活動、また雄大なヒマラヤ遊覧飛行や、世界の屋根を眺めながら、喧嘩を離れてゆったりとしたひと時を過ごします。ポカラ・カトマンズ市内観光など、皆様是非ご参加ください。詳細は別途案内資料をご確認ください。

2013年11月13日(水)

17日(日)

- ダツア村での奉仕活動、ポカラ市内観光(フエワ湖、ビンデバシニ寺院、レークサイドバザール、チベット難民キャンプ等)、サランコットの丘の朝日鑑賞、カトマンズ市内観光(白王寺院、ダルバール広場&旧王宮ハヌマンドカ、クマリの館、タレス寺院)、世界遺産バクタプル観光(バクタプルダルバール広場、ゴールデンゲート、ダルバール旧王宮、タレス寺院)、民族舞踊

をみながらのネパール料理を宿泊

- ・ハチアトリエンシーカトマンズ
- ・ホテルポカラグランド

奄美R.C(福永健一さん)より

毎年名古屋へお越しの際、当クラブの例会へビジターとして参加下さる、奄美R.C 福永健一さんより、奄美大島の「パッションフルーツ」が届きました。

珍しい夏の果物をお贈り下さり、ありがとうございます。ありがとうございました。



8月29日(木)例会の案内

ガバナー補佐訪問

*会費幹事懇談会

11時30分〜12時15分

*クラブアクセナリー

13時40分〜15時00分

役員・理事・

委員長・副委員長・

入会3年未満の会員

広報委員会

- 小澤 幸男・青木 靖高
 - 飯田 昭夫・杉浦 令淑
- *本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。